



2009.Spring

vol. **5**

指定植物図鑑



ハマオモト(伊勢志摩国立公園)

ハマユウの別名もある、暖かい地方の砂浜海岸などに生えるヒガンバナ科の植物です。志摩市の和具大島にはハマオモトの群生地があり、付近に生える海岸性の植物とともに、暖地性砂防植物群落として三重県指定の天然記念物となっています。

CONTENTS

- 特集1** 白山国立公園・伊勢志摩国立公園の紹介.....2～3
- 特集2** 持続可能な開発のための教育「ESD」を
知っていますか?4
- ローカルチャレンジ in ちゅうぶ** 岐阜県、御嵩町5
- パートナーシップがつくる地域の未来**
ユニー株式会社、アースサポーター福井会6
- レンジャーレポート／Focus**7
- イベントカレンダー／中部地方環境事務所からのお知らせ**8



環境省

中部地方環境事務所

環境省では、我が国を代表するすぐれた自然の風景地を国立公園として29か所指定し、自然環境の保護に努めるとともに、自然とのふれあいの場として快適で適正な利用を進めています。

中部地方環境事務所では4つの国立公園を管轄しており、今号では白山国立公園と伊勢志摩国立公園についてその特色などをご紹介します。



伊勢志摩国立公園

指定：昭和21年11月20日 面積：55,544ha

伊勢志摩国立公園は昭和21年に戦後初の国立公園として指定されました。

三重県中央部の志摩半島一帯を区域とし、およそ東西50km、南北40kmにわたっています。沿岸部は典型的なリアス式海岸で、英虞湾、五ヶ所湾などの深い入り江と大小多数の島々が繊細で優美な景観を見せています。

これら自然景観に加え、真珠の養殖筏、サザエやアワビなどを採る海女の姿、伊勢神宮など悠久の歴史を有する人文的景観が彩りを添え、自然の造った美しさと、人間が創った歴史文化の融合した景観が本公園の特色となっています。

伊勢地域

鳥羽地域

伊勢湾に面した海岸や離島では漁業が盛んで、夏にはアワビやサザエを採る海女の姿を見ることができます。神島、答志島、菅島へは定期船が運行されており、島では独特の植生や、漁業と自然環境の共生関係を体感できます。リアス式海岸沿いに走るパルロードは水平線を望む爽快なドライブが楽しめるほか、鳥羽展望台では360度の風景を堪能できます。

伊勢神宮を要とした扇状の約5000haのエリアは、20年に1度行われる遷宮の際に使用されるヒノキを育成する人工林が大半を占めますが、一部の天然生林は豊かな自然性を保護するため、特別保護地区に指定されています。内宮と外宮の参道周辺ではスギやクスノキなどの巨樹が神秘的な空間を創っています。伊勢志摩スカイラインの朝熊山展望台からのパノラマや、二見浦や夫婦岩などの見所があります。

南伊勢地域

熊野灘に面した海岸部では海蝕崖の発達したリアス式海岸が見られます。小湾の湾口部に砂礫が堆積することにより形成された海跡湖があちこちに点在し、特徴的な景観をつくっており、また、海跡湖周辺は、希少な植物であるハマナツメが見られます。伊勢路川の河口干潟にはハマボウの群落があり、夏には黄色の花が見られます。

志摩地域

英虞湾は人の腕のように延びる先志摩半島に囲まれ、湾内ではリアス式海岸が発達し、真珠やアオサノリの養殖が盛んです。一帯は隆起海蝕台の平坦な地形であるため、横山展望台や登茂山展望台から英虞湾を望むとジグソーパズルのピースが散らばっているように見えます。横山には横山ビジターセンターがあり、伊勢志摩国立公園の自然や文化などの情報を提供しています。

白山国立公園

指定：昭和37年11月12日 面積：47,700ha

白山国立公園は、富山、石川、福井、岐阜の4県にまたがり、白山の主峰である御前峰を中心におよそ東西20km、南北40kmにわたって指定されています。白山は、富士山、立山とともに日本三名山として古くから山岳信仰の対象となっていました。

また、高山植物の宝庫としても知られ、夏季にはあちこちにお花畑が見られます。ハクサンシャクナゲ、ハクサンフウロ、ハクサンコザクラなど「ハクサン」の名がつく可憐な花々が18種もあり、山の名前を冠した植物の名前の数は日本一を誇っています。

中宮周辺



石川県

白山スーパー林道では白山眺望や姥ヶ滝などの滝、紅葉などを手軽に楽しむことができます。新岩間温泉から90分ほど山道を歩いた先には国指定特別天然記念物の岩間の噴泉塔群があり、また、岩間温泉や中宮温泉など様々な温泉に恵まれています。中宮展示館やキャンプ場では、白山の自然や文化を学んだり、自然とふれあうことができます。中宮から白山山頂へは加賀禅定道や中宮道、北縦走路などの長距離登山道が整備されており、清浄ヶ原や百四丈滝、火の御子峰(地獄尾根)など幻想的な景色を楽しめます。

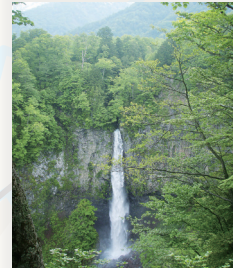
桂湖周辺



桂湖周辺には家族で楽しめるキャンプ場やビジターセンターなどが整備され、カヌーや釣りなどを楽しむことができます。桂湖から大笠山(1,821m)への登山ルートは上級者向けですが、山頂からは白山や笈ヶ岳を眺望することができます。ブナオ峠から赤摩木古山への登山道沿いにはブナ林が残り、新緑や紅葉を楽しむことができるルートとなっています。

富山県

大白川周辺



大白川周辺にはブナやミズナラなどの大木が多く、また、ドロノキの純林など、豊かで多様な森林が残っています。白水湖を一望できる温泉や、日本三名瀑の一つに数えられる白水滝もあり、山小屋やキャンプ場をベースにして付近を散策すれば、これらの自然が織り成す美しい景観をゆっくりと楽しむことができます。大白川から白山室堂へつながる平瀬道は、ブナ林や高山植物、雪渓など魅力的なルートです。

白水湖を一望できる温泉や、日本三名瀑の一つに数えられる白水滝もあり、山小屋やキャンプ場をベースにして付近を散策すれば、これらの自然が織り成す美しい景観をゆっくりと楽しむことができます。大白川から白山室堂へつながる平瀬道は、ブナ林や高山植物、雪渓など魅力的なルートです。

市ノ瀬・別当出合周辺



別当出合を登山口とする砂防新道や観光新道は、年間約3万人が利用する白山登山のメインルートです。一方、市ノ瀬からの登山道である釈迦新道やチブリ尾根

コースは、山頂まではかなり時間がかかりますが、沿線に残るブナ林などの豊かな自然を楽しめます。途中までの日帰り歩きにもおすすめのコースです。市ノ瀬ビジターセンターでは、最新の登山情報や自然情報を提供しておりますので、登山の前にぜひご利用ください。

岐阜県

石徹白周辺



白山登拝のために開かれたとされる美濃禅定道の登山口で、石徹白の集落や禅定道には数々の遺構や伝承が残っています。中でも、白山を開山した泰澄がここで杖をつき、その杖が大杉に成長したとの伝承が残っている「いとしろ大杉」は、幹周囲13m、樹高25mの巨樹で国指定特別天然記念物に指定されています。禅定道登山口である白山中居神社は樹齢千数百年の杉に囲まれており、静寂さを醸し出しています。

白山登拝のために開かれたとされる美濃禅定道の登山口で、石徹白の集落や禅定道には数々の遺構や伝承が残っています。中でも、白山を開山した泰澄がここで杖をつき、その杖が大杉に成長したとの伝承が残っている「いとしろ大杉」は、幹周囲13m、樹高25mの巨樹で国指定特別天然記念物に指定されています。禅定道登山口である白山中居神社は樹齢千数百年の杉に囲まれており、静寂さを醸し出しています。

福井県

刈込池・平泉寺・赤兎山周辺



刈込池は2時間程度で周回できるコースが整備されており、水面に映る三ノ峰やブナ林を楽しむことができます。中世の屈指の宗教都市であったとされる平泉寺(現平泉寺白山神社)では、今でも残る石畳道や石垣、美しい苔のじゅうたんを見ることができます。日帰り登山ができる赤兎山は親子連れも多く、湿原やニッコウキスゲ群落があり、人気の山となっています。

特集② 持続可能な開発のための教育「ESD」 (Education for Sustainable Development)を知っていますか？

ESDってなんだろう？

「持続可能な開発」という言葉を聞いたことがある方は多いのではないのでしょうか。けれども、「持続可能な開発のための教育(ESD)」という言葉を見たことがある方は少ないと思います。

では、その「ESD」とはどんな概念なのでしょう？「わが国における『国連ESDの10年』実施計画」では、ESDを「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていくことを認識し、行動を変革するための教育」と定義しています。しかし、具体的には何かよくわからないと、ほとんどの方が思われるのではないのでしょうか。

今私たちの身の回りには、地球温暖化や野生生物の絶滅などの様々な環境問題があります。ではこの状態が進めば、地球や人間はどうなってしまうのでしょうか？ おそらく明るい未来が待っているとは思えません。ではどのようにすれば、未来に希望を持てるようになるのでしょうか？

そのためには、私たち一人ひとりの人間が、自分が生きる、生活することによりどこにどのような影響が及ぶのか、またどこから影響を受けているのかをきちんと自分の力で探し、さらにそれを良い方向に持っていくためには、今、ど

のようなことを行動しなければならないのかを考え、自分の身の回りから変革のための行動を少しでも起こすことが必要です。

そして、そのような行動を起こす、考えるための力を養うための活動がESDです。ESDはいつでも・どこでも・誰とでも行えるもの。実は意識していなかったけれど、実はそういう活動をしていた！ということがあると思います。

あなたも、身の回りのESDを見つけて、広めてみませんか？ それがもうESDです。

ESDの歴史	年	内容
	1987年	国連ブルントラント委員会で「持続可能な開発」の概念が展開
	2002年	持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)で、日本が「ESDの10年」を提言し、国連総会本会議にて「ESDの10年」が採択
	2005年	ESDの10年スタート(2005～2014年) 「ESDの10年・国際実施計画」がユネスコ理事会で承認
	2006年	「わが国における『国連ESDの10年』実施計画」策定
	2009年 3月	「ESDの10年」の後半に向けた対話の場「ユネスコ世界会議」(ボン(ドイツ))が設置

ESDの取組 in 中部

中部地方では様々なESD活動が展開されていますが、その一部をご紹介します。

♣かすがいKIZUNA

「かすがいKIZUNA」事業は、環境省の「ESD促進モデル事業」に中部地方から採択されました。

この事業は平成18年度と19年度の2か年にわたっており、1年目は運営のための枠組み(協議会)づくりと計画づくりをし、2年目にその実践を行いました。舞台となった愛知県春日井市立東高森台小学校の周りには、中部大学といった高等研究機関や青少年自然の家などの教育施設、春日井の自然を守ろうとする「かすがいギフチョウのすむ里山づくりの会」など子供たちの教育にかかわる様々な関係者が存在し、事業運営のための枠組み(協議会)づくりに参加していただきました。

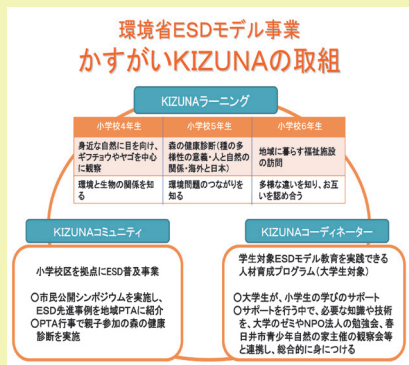


森の健康診断プログラム

事業の特徴として、大きく3つのシステム(別図参照)を掲げて、子供たちの環境教育をESD的に進めました。

具体的には、子供たちの学びに対するカリキュラムをつくり、それを支える人材として大学生が子供たちの講師役(KIZUNAラーニング)となり、その大学生を地域の関係者が支え(KIZUNAコーディネーター)、さらに、地域のPTAなどの協力によるESDの普及事業、学びの成果を発表する場(KIZUNAコミュニティ)づくりを行うといった体制が構築されました。

環境省の事業としての期間は終了しましたが、今でもこの「きずな」を維持し、子供たちの環境教育が実施され、地域に根付こうとしています。

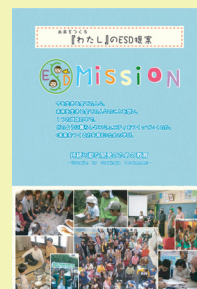


♣中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

EPO中部では、ESDの普及促進に取り組んでいます。なごや環境大学と協働で「講座」を開催したり、様々な関係者とESD事例調査等を実施しています。昨年12月には今までの調査等の結果を取りまとめ、そこから得られた「気づき」をまとめた「未来をつくる『わたし』のESD提案」という冊子を制作しました。

ご興味がある方は、EPO中部までお問い合わせください。

EPO中部ホームページ <http://www.epo-chubu.jp/>



ESDについて詳しくは：環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html>

岐阜県

レジ袋削減から始める地球温暖化対策

岐阜県では、「CHANGEマイライフ」を合言葉に、地球温暖化対策に取り組んでいます。一つは、「マイバッグ使用宣言」「マイはし使用宣言」など身近にできる10



の取組みをまとめた「ぎふエコ宣言」に賛同いただける方を募集しており、昨年6月に始めて以来これまでに約8万人もの県民の皆さんに参加し、取り組んでいただいています。

また、こうした取組みと並行して本県で積極的に展開しているのが、レジ袋削減につながる「レジ袋の有料化」です。これは、事業者、住民、市町村、県が一体となった岐阜県独自の4者協定方式で進めており、導入からわずか1年程度(3月1日時点)で、県内42市町村のうち40市町村で導入、参加店舗数も800店を超えるなど予想を大きく上回るペースで広がっています。加えて、有料化後のレジ袋辞退率は9割程度に上昇するなど、マイバッグ使用によるレジ袋削減の意識は県民に広く着実に浸透しつつあります。

こうした本県の盛り上がりを全国に向けて情報発信し、より活性化させることを目的として、昨年12月1日に岐阜市内において「レジ袋有料化全国大会」を開催しました。当日は、富山県や東京都杉並区の先進的な取組みの紹介や、「住民・事業者・行政が一体となった取組み」をテーマとするパネルディスカッションを行い、約500人の参加者が熱心に耳を傾けました。



「レジ袋有料化全国大会」の様子

今後は、「ぎふエコ宣言」参加者の拡大、県内全市町村でのレジ袋有料化開始と参加店舗の拡大を図りながら、レジ袋削減をきっかけとする「ごみの減量化」や「岐阜県地球温暖化防止基本条例」(仮称)の制定など、さらなる地球温暖化対策を推進していきます。

岐阜県環境生活部地球環境課

☎058-272-1111(内線2694)

御嵩町

「自然と人間が共生する新たな循環型社会」への取り組み

濃尾平野の北東の端に位置する人口約2万人の御嵩町は、約6割を森林が占め、また江戸時代には中山道の宿場町として栄えた、自然と歴史の調和する里山のまちです。

本町では、平成9年の全国初の産業廃棄物処理施設計画に係る住民投票の実施を契機に、御嵩町環境基本条例と環境基本計画を制定するなど、環境保全活動を重点に推進してきました。また、産廃問題については、昨年3月に県、事業者、町の三者による全面和解が成立し、事業者が申請を取り下げることとなりました。こうした流れの中で、負のイメージを脱却し、「環境先進の町」への転換を図るため、低炭素社会を目指したまちづくりを進めています。

CO₂吸収対策として、森林整備や間伐材の搬出・有効活用を目指して、500ha以上の森林を集約化し、路網整備や機械化による効率的な森林づくりを推進しています。また、垂臨界水処理技術を活用し、林地残材(小径木や枝等)から工業原料(バイオエタ



企業と協働による森林づくり

ノール、キシロオリゴ糖、リグニンペレット)を製造する木質系バイオマス推進プロジェクトにも参画し、その実用化を目指しています。さらに、里山再生のために、NPOやボランティア、企業による間伐、下草刈りなど、多様な主体による森林づくりを推進しています。

また、CO₂削減対策として、商工会や地元建設業者とも連携して、各種研修を実施し、中小企業のCO₂削減に向けた省エネ対策や地元工務店による高気密・高断熱住宅の建設促進に向けた取り組みを進めています。



子どもによるソーラーカーづくり

今後は、太陽光発電やBDF、バイオエタノールなど新エネルギーの積極的な利活用を促進していきます。また、地元企業や大学、高校、商工会など産学官連携のもと、エコビジネスへと展開できる仕組みづくりや積極的な情報提供、各種研修などを実施しながら、自然と人間が共生する新たな循環型社会の構築を目指していきます。

岐阜県御嵩町役場総合政策課

☎0574-67-2111



●+■⇒★▼● パートナーシップがつくる地域の未来!

未来の子供達に美しい自然を残したい ユニー株式会社の環境学習

現在のことだけではなく未来のことも考え、未来の子供達そして地球の生き物のために、美しい自然を残し、持続可能な社会をつくること・・・それがユニーの環境学習の目的です。そして、地元NPOや企業とのコラボレーションによる「地域の環境学習の環づくり」を、EPO中部(環境省中部環境パートナーシップオフィス)と一緒に進め、子供達に対するESD(持続可能な開発のための教育)の実践を目指しています。

●地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗の近くで活動しているNPOと一緒に、店



子供環境学習会

舗を会場にして環境学習を実施しています。子供達は地域の中での環境保全活動やグリーンコンシューマーについて学ぶことができました。(名古屋市・福井県・石川県・三重県・長野県・富山県で開催)

●地元企業とのコラボレーション

中部電力やデンソーなど地元企業と一緒に「環境にやさしいお買い物」「エコクッキング」「リサイクル工作」などを実施しました。バックヤードツアーやお客様と一緒に進める環境活動などを通して、店舗従業員との交流もできました。

●インタープリター養成

NPOメンバーや学生、一般市民の方達が「お店探検インタープリター」になって環境学習で活躍していたために、「なごや環境大学」に講座を設置していただき、EPO中部の協力の下、



お店探検隊インタープリターになろう講座

インタープリターの養成を行っています。ここで養成したインタープリターが、ユニーの子供環境学習「お店探検」で活躍しています。

また、ユニーでは地元農業者と「食品リサイクルループ」(店舗から排出した生ゴミをリサイクルして堆肥にし、それを使って栽培した作物を店舗で販売する環)を実践し、その農場での農業体験をお客様とお子様対象に行っています。毎日の食卓に並ぶ食物がどのように作られているのか。田植えや収穫体験により「たくさんの生き物と一緒に生きていること(生物多様性)」「食べ物を大切にすること」を学んでもらいました。

ユニーはこれらの活動を通して、次世代を担う子供達に「毎日の生活の中で私にできること」を見つけ出し、実践して行ってほしいと考えています。

お問い合わせ：環境社会貢献部 ☎0587-24-8093

地球温暖化防止をめざして「環境紙芝居」出前講演 子供が変われば大人も変わる アースサポーター福井会

アースサポーター福井会は福井県より委嘱を受けた福井市内の「福井県地球温暖化防止活動推進員」を中心に構成し、会員相互の研鑽の場として平成19年2月に会則を制定し、会費により運営する会を立ち上げました。

会は、より効果的な地球温暖化防止の推進をどうすればよいのか議論を重ね、その結果、「地球の未来を担う子供達への環境教育」が最も大事であるとの意見で一致しました。何故なら物の豊かな時代に育った今の大人よりこれから育つ子供達にこんにちの地球温暖化問題を深く認識し、防止にとりくんでいただきたい、また子供から大人へ働きかけて貰うことがより効果があると思いました。

方法は「紙芝居」による「環境教育出前講演」を行うことになりました。

対象の絞り込みで迷いましたが小学校と児童館に決めました。何故なら受け入れてもらいやすい気がしたからです。

今まで、県環境政策課が管理しているものを使っていましたが、今後方々でやる場合ストーリーの異なるものも

必要と言うことでオリジナル紙芝居を制作することになり、19年6月頃より会員それぞれストーリー案を持ち寄り検討に検討を重ね、9月に節水編「水の精 パチャとグリーンの冒険」、

節電編「省くん・エネちゃんある夏の1日」を完成させました。さて、画の部分はどうしようと言うことになり、仁愛女子短大の幼児教育科の教授を通じて、デザイン科の学生にお願いすることができました。また、経費についても福井県の大学・高校生の環境グループ活動助成金を活用することができました。

制作に当たってはシナリオと画のすり合わせを3回行い、昨年2月に完成し、学生と一緒にお披露目出前講演行いました。

以後、福井市内の小学校・児童館等へ働きかけ17箇所から依頼があり、延べ児童785名、大人165名の方々にいただきました。身近な出来ることから取り組める「節電・節水」を中心に「もったいない」の気持ちを持って生活することが地球温暖化防止につながることを子供達に教えると共に保護者の皆さんにも資料等を通じて啓発しています。

私達は「子供が変われば大人が変わる」を信じて活動を推進しています。みんながそれぞれの立場で温暖化防止に努め、力を合わせて「この美しい住みよい地球」を子孫に残していきたいものです。

お問い合わせ：代表 野村昭一 ☎0776-35-0365



省くん・エネちゃん紙芝居



上高地のニホンザル対策

上高地自然保護官事務所 広野 行男

上高地は、中部山岳国立公園の南部に位置し、日本を代表する山岳景観が手軽に見られることから、登山者はもとより国内外から約150万人の利用者が訪れています。毎年4月27日に河童橋のたもとで開催される開山祭で上高地のシーズンは始まります。木々の芽吹きや花の季節には早いものの、5月の連休にはすでに夏場同様のにぎわいとなります。

芽吹く前の上高地を歩いて近頃目につくのは、周辺に生息するニホンザルによる樹皮剥ぎです。食物の不足する冬の間の採餌行動によるもので、梓川河畔のエゾヤナギなど特定の樹種が目立って被害を受けています。かつてはほとんど見られなかった行動の変化が起きており、こうした傾向が更に進めば景観への影響も懸念されるため、被害木のモニタリングを行っています。



間近でサルを観察する利用者(田代池)

一方で、そのニホンザルの群れは、人慣れが急速に進んできています。歩道上に群れては、通行する人などお構いなしに悠然と道端の草や葉を食べる光景

が目につきます。訪れる人々にとっては、野生の動物を間近に観察できるめずらしい機会であり、写真を撮るなどふれあいの対象となっていますが、人間との距離があまりにも近づきすぎると、動物たちが本来持っている警戒心や野生本能を損ねることになってしまいます。また、ふとしたことから餌やりなどが行われてしまえば、更に行動を変化させてしまい、とり返しのつかない状況にもなりかねません。そのような状況をまねかないよう、現在、上高地では、地域の関係者全員が「サル監視員」となり、地元一丸となって追い払い活動を実施しています。環境省としては、餌やり防止のための4か国語表記の注意標識等の設置を始めているところです。



4か国語対応餌やり防止の注意標識

上高地のニホンザルは、寒冷な気候に適応し群れを維持している特異な存在とされています。彼らのあるがままの姿を守りながら、上高地の変わらない景観を維持していきたいと考えています。

Focus

新3R推進マイスターの委嘱、環境大臣賞の表彰が行われました!

環境省では、1月15日(木)に東京都品川区のゲートシティホールにおいて「容器包装3R推進全国大会—レジ袋削減の取組を全国へ—」を開催しました。この中では、三重大学の朴学長補佐による講演や、全国における先進事例の紹介が行われたほか、平成20年度容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞の表彰が行われました。当事務所管内では最優秀賞の受賞はなかったものの、「地域の連携・協働部門」の優秀賞を三重大学が、また「小売店部門」の奨励賞を名古屋勤労市民生活協同組合がそれぞれ受賞し、2月に中部地方環境事務所から表彰状を伝達しました。

また、全国大会に先立ち行われた3R推進マイスターの第3期委嘱式では、当事務所管内から、渡辺ヒデ子氏(長野県長野市)、笠井雪子氏(長野県千曲市)、広田奈津子氏(愛知県名古屋市)及び広川雄三氏(愛知県春日井市)の4名の方に新たに委嘱を行いました。



「地域の連携・協働部門」優秀賞を受賞した三重大学の皆さん

「地球温暖化防止～ひろがれ! つながれ!ちいきの環～」

シンポジウム&中部4県活動報告会

1月24日(土)に岐阜市のグランヴェール岐山において「地球温暖化防止～ひろがれ!つながれ!ちいきの環～シンポジウム&中部4県活動報告会」を開催しました。

このイベントは、中部エネルギー・温暖化対策推進会議が中心となって、温暖化に関する情報を交換・共有し、地方公共団体をはじめとする中部地域の方々に自主的な取り組みを促進していただくために行ったものです。

当日は省エネ家電の普及啓発を図るためのシンポジウムを行ったほか、「ストップ温暖化大作戦! 私たちの取り組み」では中部4県の11団体が日頃の活動を報告しました。皆さんの熱心な様子に温暖化防止の身近な取り組みがひろがり、つながって大きな環になればと思う1日となりました。



EVENT CALENDAR

平成21年3月～5月



＊中部地方環境事務所 ☎052-955-2130 http://chubu.env.go.jp/	＊横山ビジターセンター ☎0599-44-0567 http://www.yokoyama-vc.jp/
◆食品残さのリサイクルから地域循環圏を考えるシンポジウム 3月24日(火): キャッスルプラザ(名古屋市中村区)	◆アカガエルの観察会 3月7日(土)
＊名古屋自然保護官事務所 ☎052-389-2877	＊長野自然環境事務所 ☎026-231-6570 http://chubu.env.go.jp/nagano/
◆親子で田んぼ探検～ちっちゃな春を見つけよう～ 3月14日(土)	◆自然とふれあうみどりの月間の集い 志賀高原雪上観察会 4月29日(祝): 志賀高原周辺
	＊鹿沢インフォメーションセンター ☎0279-80-9119 http://www.kazawa.jp/
	◆ダイナミックスノーシュー四阿山・石樋コース 3月7日(土)

中部地方環境事務所からのお知らせ

中部地方環境事務所が移転しました

中部地方環境事務所は移転し、平成21年3月2日から新たな庁舎で業務を行っています。

移転先住所

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2
 (地下鉄名城線「市役所駅」下車4番出口 徒歩5分)

連絡先 TEL: 052-955-2130 総務課
 052-955-2132 廃棄物・リサイクル対策課
 052-955-2134 環境対策課
 052-955-2135 国立公園・保全整備課
 052-955-2139 野生生物課

FAX: 052-951-8889

※電話番号、FAX番号とも変更はありません。



家電リサイクル法の対象機器が追加されます

家電リサイクル法の施行令が改正され、今年の4月1日から、リサイクル義務のある家電に、従来の**エアコン**、**ブラウン管式テレビ**、**冷蔵庫**・**冷凍庫**、**洗濯機**に加え、新たに、**液晶式テレビ**、**プラズマ式テレビ**、**衣類乾燥機**が追加されます。

4月1日以降はこれらの機器についても、使われなくなった場合は家電の小売店などが引き取るようになりますので、適正な処理と貴重な資源の有効な利用を一層推進するため、皆様のご理解とご協力をお願いします。

編集後記

今号で特集した「E S D」(持続可能な開発のための教育)。地球温暖化や資源、食料の問題など、私たち自身と社会や地球とのつながりに気づき、未来に向けてそれをより良いものにしていく力を育むこと、とも言えるでしょうか。

中部地方では、伊勢・三河流域圏でのE S Dの取り組みが世界で36番目のE S D地域拠点として国連大学に認定されるなど、E S D促進の動きが活発に広がっています。生物多様性条約C O P 10を機会に、E S Dがより身近なものとなることを目指したいと思います。

花粉のフェイスパウダー 〈撮影: 常富 豊〉

表紙の写真

春に花を咲かせる梅、桜などの園芸植物は、春を待っていた我々の目を楽しませる一方で、花の蜜を好むメジロやヒヨドリなどの貴重な餌資源にもなっています。名古屋市内の公園のソメイヨシノが一斉に花を咲かせた3月末、たくさんのメジロがかわるがわるやってきては花の蜜を吸っていました。



中部地方において様々な「環境」の活動に取り組んでいる方々が、この広報誌を通して「環」(わ)のようにつながって、その「環」が広がってほしいという願いを込めて命名しました。

発行: 環境省

中部地方環境事務所

〒460-0001
 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2
 TEL 052-955-2130 FAX 052-951-8889
 URL <http://chubu.env.go.jp/>

中部地方環境事務所では、「環境省ちゅうぶ環境メールマガジン」を発行しています。配信をご希望の方は、中部地方環境事務所ホームページをご覧ください。

平成21年3月発行

長野自然環境事務所

〒380-0846
 長野県長野市旭町1108 長野第一合同庁舎3階
 TEL 026-231-6570 FAX 026-235-1226
 URL <http://chubu.env.go.jp/nagano/>



中部地方環境事務所は、(財)日本環境協会の承認を得て、エコマークをシンボルマークとして使用しています。



古紙/パルプ配合率100%再生紙を使用



「大豆油(インキ)」を使用



F-B10020